



▲生家のアトリエ全景

して、そしてまたあるときは
絵画作品にとどまらずに、お
もちゃの製作であるとか、陶
器への絵つけであるとか、版
画作品、更には母校を飾る壁
画にいたるまで、芸術家とし
て成さぬことはなかったの
はと思えるほどに多くの作品
を残している。どの作品にも
モチーフに対する画家の温か
い視線が感じられ、見る人の
心をなごませてくれる。

画伯の作品の根底には常に

対象を見る側の「愛情」に満
ち溢れている。またそれを感じ
ない人はいないのではない
かと思える程、表現技術も卓
越している。一見さらりとし
たスケッチ風の作品も構図の
とらえかたが新鮮であったり、
一日二日ではとうてい習得で
きないデッサン力に裏付けさ
れて、画伯の思いは絵にする
ことでよりいっそうの魅力を
発揮するものと思う。絵かき
を志すものならば誰しも、思

いどうりの絵を描きたいと思
うのであろう。もちろん絵か
きに限ったことではないが、
思いどおりの人生を送りたい
ということと同様に、自分の
願いが叶うことは人生の中の
ほんの一部分だけであらう。
香月泰男画伯は、彼の人生に
おいて少なくとも、絵を描く
という意味では自分の思いど
おりの仕事をしていたのでは
ないかと思う。「ここがわた
しのふるさとだ。思いどおり
の仕事場で思いどおりの製作
ができる」と、このようなコ
メントを残しているのも事実
である。

最後まで三隅を愛し、三隅
を離れず、三隅と共に生涯を
過ごした画伯であるが、彼と
て、あくまで一人の人間であ
る。彼を知る人も知らぬ人も
様々な思いをもって画伯の作
品を鑑賞し、その人柄に触れ
るであらう。

私は、ここ三隅で生活する
中で、他では知り得ない香月
泰男画伯の素顔というか、ひ
とりの人間として画伯の生き
方に深い感銘を受けている。
もちろん、画伯の全てを知り
得ることは不可能であるにし
ても、これから先、もっともっ
と作品に触れ、画伯の心を感じ
たいのは事実である。

三隅町立香月美術館 竣工式

並びに開館行事は10月25日(月)午前10時～

○一般公開は翌日からです。



(アトリエの一部)

開館記念として、寄贈さ
れた446点の作品の中より、
身の回りの物をモチーフに
描いた作品を「私の地球」
展と題して10月26日～2月
25日まで展示します。

開館時間：午前9時～17時
(只し入館時間は16時まで)

休館日：月曜日

(祝日の場合は翌日)

年末・年始(12月28日～
1月4日まで)

入館料金

一般 500円

高・大学生 300円

小・中学生 200円

※団体割引は20名以上で

2割引

なお町民の方々には招待
券を各戸に配布する予定で
す。